

景観形成基準確認シート

③開発行為

届出者氏名	〇〇株式会社 代表取締役 〇〇〇〇 （代理人：株式会社〇〇 担当：〇〇）			
行為の場所	米沢市大字〇〇 〇〇番地			
周辺景観の特性	○ 当行為地の周囲には、〇〇公園、〇〇山があり、景観が優れた地域である。 ○ 当行為地は、歴史的遺産である〇〇に近接しており、近隣の建築物も〇〇の意匠を取り入れたものとなっている。 ○ 当行為地は、田園集落の端に位置し、敷地となりは農地が広がっている。 ○ 当行為地は、低層住宅地の端に位置し、敷地の反対側は公園となっている。 ○ 当行為地は、松が岬公園周辺地区内に位置し、お堀に面しており景観が優れた地域である。 ○ 当行為地は、米沢駅前周辺地区に位置し、近隣には、〇〇商店〇〇銀行があり、景観の優れた地域である。 [第2種住居地域] 用途地域の指定等を記載してください。 周辺景観の現状と当該行為の概要及び必要性を簡素に記入してください。			
項目	景観形成基準	具体的な配慮又は工夫の内容	適否※	意見※
開発行為	開発後の状態が、周辺の景観と著しく不調和とならないこと。	○ 〇〇跡地の開発であるが、周辺の住宅地の区画規模に合わせた区画割りとした。 ○ 〇〇から望見できる位置に擁壁を設置しなければいけないので、手前に樹木を配置して、直接擁壁が望見できないように配慮した。 ○ 周辺住宅地との連続性に配慮した区画割りとした。	適・否	「〇〇に配慮した。」 「〇〇と調和した。」 等の記載ではなく、 「〇〇との連続性を意識し、〇〇とした。」 「周囲が〇〇のため、〇〇と調和した意匠とした。」など 具体的に記入してください。
	造成等での擁壁や法面は、必要最小限にとどめるとともに、法面は緑化に努め周辺の景観と調和を図ること。	○ なるべく土地の形状を活かした造成とし、法面をゆるやかにするとともに、擁壁を設置しなければならない場所は、2段の擁壁として、植栽を行う計画とした。 ○ 既存の微高地及び水路を活かし、土工事を極力減らし、地形をできるだけ変更しない計画とした。	適・否	
	斜面における土地の形状を変更する場合は、原状の形状を活かすよう配慮するとともに、植栽等による修景に努めること。	○ 斜面における開発ではない。 ○ なるべく土地の形状を活かした造成とし、法面をなるべくゆるい傾斜として、樹木を植栽する計画とした。 ○ 長大な法面、擁壁が発生するため、2段に分ける計画とした。	適・否	
	樹木の伐採は必要最小限にとどめること。	○ 周辺の樹林地を活かした造成計画とし、既存の樹林地を計画に盛り込んだ計画とした。 ○ 敷地内にシンボルとなる高木があるので、この高木を活かした緑地を配置した。	適・否	

[記入上の注意]※印の欄は、記入しないでください。